令和７年度　　園評価書

園番号　　20　園名　東新田こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）　　○成果　●課題

１　教育・保育目標	２　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かで たくましい子	この遊びが おもしろいと 思える子	子どもたちは気づきやひらめき、偶然の発見を試したり、楽しんだりしながら、よりこの遊びが面白いと思えるように、身近な道具や素材を工夫し組み合わせ繰り返し楽しんでいる	○保育教諭が遊びや場面に合った言葉かけをしたり、子どもの興味に合わせた素材や教材を用意してきたことで、気づいたことを試してみたり、経験してきたことを自分なりに取り入れたりしながら楽しむ姿がある ●経験に差があり、道具や素材を遊びに取り入れることが難しく、繰り返し遊ぶ姿や周囲との関わりが広がらず、興味を持ってもやってみようとする子が少ない	A	A	・家庭環境も違い、差はどうしてもある中で、一人一人に合わせた取り組みがけ継続されている ・小学校でも周りからの言葉をインプットした上で、自分がどうしていくかをアウトプットすることに課題を感じている。園がインプットに対して課題を感じていることで、小学校での課題や改善に繋がってく ・集団で生活する中で、上手く表現できなくて困ることも、成長していくために必要な経験だと思う。先生の支援によってアウトプットできていることは結果的に良いことだと思う	・子どもが何に気づき、どんな事に面白さや楽しさを感じているのかを保育教諭が捉え、遊びだしたり繋がったりしていくための声掛けや援助を継続していく ・０歳児から保護者や保育教諭に思いを受け止めてもらう経験を大切にし、自分の思いを自分の力で伝えることができるような機会を作っていくことで、友だちの思いにも気づき、関わる楽しさを感じていけるようにする ・保護者や保育教諭が先回りをしてしまう場面もあるので、年齢に合った表現ができるよう対応の仕方を考え、保護者と共有していくようにする
		子どもたちは自分と違った考えに気づいたり、相手の思いを聞いたりしながら自分の思いを言葉や仕草で伝えようとし、人との関わりを楽しんでいる	○相手に思いを伝える場面を保育教諭が意識して作っていくことで、相手の思いを知ったり様々な表現方法で自分なりに思いを伝えようとしたりしている ●自分の思いは出すが、相手の思いを聞いたり、違いに気づいたりすることが難しい子もいる	B	B		
		子どもたちは困った場面に出会った時に、自分から言葉や仕草、表情で周りに伝えようとしている	○年齢にあった表現の仕方で保護者や保育教諭に困ったことを伝える姿がある ●保護者や保育教諭の言葉かけや援助があることで、困ったことを表現できる子もいる	B	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
１ こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は、それぞれの年齢の発達や成長を捉え、職員同士が連携を取りながら園全体で子ども理解を深めている	○公開保育の事前事後研修の場で各歳児の教育課程を確認し、今の子どもたちの発達や成長を捉えたり、会議や日々の会話の中で子どもの姿を共有したりしてきたことで、一人一人に寄り添い、子どもの理解を深めようと意識した ●クラスや学年での連携はしていたが、異年齢での交流の機会が少なく、職員の子ども理解にも差がある	A	A	・忙しいなかで、職員同士が共有に努めていると思う。継続していくことが大切だと考える	・発達の理解を深めていくために、教育課程を介して保育計画を立て、会議や公開保育等で共有していく。又、異年齢での交流を増やし、学年を超えて関わる機会を作っていくことで、職員全員が他のクラスの子どもに関わり、支えていく意識を高めていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園は、保護者からの連絡を職員間で確実に伝達し合い、必要なことを共有、周知している	○コドモンで保護者からの伝達がいつでも確認できたり、伝達事項等を１日を通して記入するバインダーを活用することで、確認がしっかりとされていた ●クラス担任への周知はされるが、フリーの職員への周知がされていないことがあった	B	B	・大きな問題には繋がってはいないが、フリーの職員への周知を課題として、危機感をもち、伝達への意識を継続していくって欲しい	・職員会議で話した内容を書面のみでフリーの職員に伝えていたが、月１回以上昼の時間を利用した会議を行い、全職員の把握を目指していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	園は、気づきやひらめき、偶然の発見からこの遊びが面白いと思えるような時間や場、道具、教材、素材を用意している	○子どもの遊びの姿から気づきやひらめき、偶然の発見を職員間で共有し、子どもの遊びの姿に合わせて環境を設定したり、再構成を行ったりしている ●職員の子どもの発達に合わせた道具や教材、素材の特性、季節ごとの遊びなどへの知識や経験に差があり、用意することに難しさを感じることがある	A	A	・差があることを前提としての取り組みが大切。振り返りをしながら、遊びや子どもの姿に合わせ、環境構成に努めていることを継続して欲しい	・発達にあった道具や教材、素材の提供のタイミング、使い方や園内にあるそれらのの活用方法を保育教諭自身が学び合える機会（園内研修）を定期的につくる
２ 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園はあと一歩で事故になるところだったというヒヤリハットした出来事を記録、分析、改善、その後の検証を職員間で周知し事故防止対策を行っている	○分掌が中心となり、ヒヤリハットの収集の工夫や、危険個所の状況の周知、分析を毎月会議で行うことで、職員の事故防止への意識が高まった ●行事がたてこんでいる時期に、ヒヤリハットの提出率が低かった。職員間で共有しきれていない事案もあり、一人一人の認識に差がある	B	B	・分掌が中心となり、意識して取り組んでいることが分かる。しかし、満足せず危機感をもって取り組んで欲しい	・怪我の報告があった時点で、ヒヤリハットの記入を呼びかけ、提出の確認を行っていく（分掌、副園長中心で） ・検証後の対策を保護者にも書面や表などで発信していくことで、園全体で事故防止への意識を高めていけるようにする
３ 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、毎日の健康管理（コドモン、送迎時の口頭など）を行い、うがい、手洗い、園内の消毒、十分な換気に対応している	○登園時の聞き取りやコドモンの活用により子どもの、健康状態を職員間で共有し早めの対応や個別対応することができた ○幼児組ではうがいや手洗いの必要性を繰り返し子どもに伝えたり、乳児組では日々玩具の消毒や生活する場を清潔に保つ意識をしたりしながら健康管理に務めた ●幼児組では特に感染症の流行時期には、より丁寧は消毒や換気などを意識する必要があった	A	A	・保護者も保育者も最大限にコドモンを活用し、子ども体調管理ができていると思う。また、子どもの健康に対する意識が変わったことこそ、健康教育に繋がっていると思う	・時間やタイミングを決め、十分な消毒や換気等で感染症対策を行っていく。また、子ども自身が、自分の命や健康に対し、守っていけるような言葉かけをしたり、環境を作ったりしていくことを続けていきたい
４ 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人に合わせたサポートプランを作成し、アンパンマンの会での活動や担当者会議で話し合った内容を園全体で共有し丁寧な関わりをしている	○クラス職員と連携し、細かい成長を捉えていくことで、子どもの姿に合ったサポートプランの作成を行った。保護者との面談での共有も十分行うことができた ○アンパンマンの会では、その日の気持ちや体調を尊重し、参加の有無を子ども自身が決めるようにしたり、少人数で行ったりしながら、安心して参加できるようにした ●支援児の姿や担当者会議の内容の共有が十分にできなかった	A	A	・目の前の子どもに合わせたサポートプランを、育ちに合わせて更新していくことを継続して欲しい。共有の方法が色々あると思うので、取り組んで欲しい	・職員会議の場を利用し、毎回支援児の姿や担当者会議の内容を共有する ・支援児担当職員のみでなく、クラスリーダーも担当者会議への参加をしていく
５ 組織運営	(1)組織体制の充実	園は、園務分掌リーダーを中心に各担当が見通しを持って企画し、それぞれの分掌が協力し合って園運営を行っている	○各分掌のリーダーを中心に計画的に行うことができた ●分掌によって、仕事の量にかたよりを感じ、リーダーが仕事をの振り分けを均等にできていないところがあった	A	A	・リーダーが負担に感じることのないよう、各分掌で、4月に１年間の分担を決めたり、他の分掌への協力を考えていけると良いと思う	・計画的に進めていけるよう、年度始めには分掌が集まり、確認しあっていく。また、他の分掌と連携をとることで、業務の負担が偏らないようにしていく
６ 研　修	(1)研修体制の充実	園は、研修テーマ「子どもの探究心が膨らむ保育教諭の援助」に向けて、保育実践と研究を重ねている	○研修を重ねることで学びを深め、発達のおさえをしながら日々の保育に取り入れている ○各クラス１回ずつ公開保育を行い、そのクラスにあった意見やアドバイスをもらい各担任が振り合えりをまとめることで、保育への探究心が育ってきている ●職員の子ども理解に差があり、学びを深める難しさがあった	A	A	・公開保育のみにならず、日々の保育を大切にする姿勢が良い。継続していくことを大切にしていって欲しい	・職員全員が共通理解しやすい研修テーマを考え、子供理解を深め、歳児の発達の捉えができるようにしていく ・公開保育や日々の保育での課題を見い出し、日々の学びへと繋げていくことを意識していく
７ 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、備品、遊具、教材等の配置、保管、点検を適切に行い、日頃から教育・保育環境の整備に努めている	○月当番が責任をもち、必要な教材の確認から発注を行ったり、各クラスの環境を職員間で見合ったりすることで、子どもの発達や季節に合った保育環境を考え用意することができた ●環境整備は継続が難しかったり、園全体の環境に対する職員の意識に差があったりしたため、園庭やホールの教材を適切に使用したり管理ができていなかったりしたことがある	B	A	・園全体の環境への意識は向いていたと思う。業務改善を行い、職員の余裕が必要になってくると思う	・園内研修で適切な教材や素材の使い方を職員で考えたり、教材を管理しやすいよう棚の設置や視覚で可視化しながら環境整備を継続していけるようにする。また、業務改善を含め、園全体で取り組む時間を作ってけるよう考えていく ・公開保育や事前研事後研には、正規、非正規に関わらず、全クラス担任が1回は参加をし、教育保育の共通理解をしていく
８ 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、日々の活動や遊びを通した気づきやひらめきから、この遊びがもっと面白くなるようにと取り組んでいる探究の課程をコドモン、ホームページ等で可視化して伝えている	○写真を活用した連絡帳やボード配信、おたよりの掲示により、日々の活動や子どもの成長をわかりやすく伝えることができており、送迎に来られない保護者にも園の様子を共有できるようになった ●探究している姿やひらめき等保育教諭の伝えたいことが保護者に伝わっているのか分かりにくい。また、文字数制限があるため伝えたい内容や気づき・ひらめきを十分に表現することが難しい	A	A	・保護者の評価も良く、園から保護者に遊びや生活の姿を十分伝えることができていると感じる。文字数制限などの課題のクリアができると良い ・職員が交流の目的を理解しながら、続けていくことが大切だと思う。また、色々な園から１つの小学校へいくことを考えると、交流をしながら繋がりをもつことで成長に繋がっていると思う	・何を一番伝えたいのかを意識しながら、具体的で分かりやすい内容を簡潔に伝えられるよう保育者の発信力を高めていく。また、必要に応じて複数回配信するなど工夫し、研修内容を含め、保護者にも理解しやすい発信を意識していく ・コドモンの活用機能について職員同士で共有しながら、発信していく
９ 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は、支部拠点園として公開保育や交流活動を計画、実施し、乳幼児期に育ってほしい姿について共通理解を図り意見交換を行っている	○長田地区５カ園での交流（職員の交流、年長児の交流、公開保育への参加等）を継続し、さらに今年度は全学年の職員交流や年中児の交流を行ったことで、子ども理解を深め、共有することで保育に活かすことができた ●限られた時間の中で、次の計画を立てる点で難しい学年もあった	A	A		・持続的な交流ができるよう、年度初めに日にちや交流の仕方について具体的な計画をたて、見通しをもって交流していけるようにする
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、勤労感謝訪問、地域行事への参加、せきれい会や連携園・近隣園との交流、おしゃべりサロンの開催を通して地域との連携を図っている	○せきれい会やおしゃべりサロン等で地域の方との交流の機会を積極的にもち、職員も子ども達も交流を楽しむことができた ○連携園の職員や子どもたちが来園し、継続的な交流の機会をもつことができている ●連携園側から来てもらうのみの交流になっている	A	A	・せきれい会では、1年間の予定を４月に組むことで、継続できている。連携園とも、４月に計画をたてていくと交流しやすいと思う。年間を通して計画し、持続可能な会や機会になっていることは大きな成果だと思う	・４月に交流の日を決め、こちらから近隣園に行ったり、近くの公園で交流するなど工夫しながら、交流の機会を増やしていきたい。 ・地域や近隣校の行事などの情報をキャッチし、交流ができるように働きかけていく